

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671500852		
法人名	社会福祉法人 高越会		
事業所名	グループホーム上板		
所在地	徳島県板野郡上板町神宅字堂床27		
自己評価作成日	平成29年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年1月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所は幹線道路から少し入った静かな環境の中に位置している。建物は周囲の民家より少し高い場所に位置し、屋内の共有空間には大きなガラス窓からの眺めも良く、季節の変化を屋内からもち早く感じることができる。職員は利用者様一人ひとりのこれまでの生活を大切に、御家族、知人の来訪を頻繁なこととできるように家庭的な雰囲気作りに努め、気軽に立ち寄って頂ける温かな場所であることを目標としている。また壁面には月々担当者が創意工夫をこらし季節を感じて頂けるように配慮している。花見、夏祭り、運動会と利用者様中心のイベントを季節ごとに計画し実践している。利用者様に本当の家族のように温かい思いで接する事により、住み慣れた町で穏やかな日々を過ごして頂けるよう配慮している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、「認知症を有する人々が共同生活をとおり、温かな心の交流にふれ尊厳ある人生を送って頂けることを目的とする」という理念と事業所独自の短期目標を掲げ、管理者と職員は日々のケアに反映できるよう共有実践に努めている。学生の体験学習や地域ボランティア訪問も積極的に受け入れている。季節の果物を使用したアイスづくりやマジシャンの訪問等、楽しい時間になるよう工夫している。日頃の生活の中で、利用者一人ひとりが、洗濯たみや調理の下準備、季節の壁飾りや菜園での作業などの役割を發揮できる場面づくりに努めている。同一法人の運営する協力医療機関の定期的な訪問診療や緊急時の対応体制の構築によって、利用者の安心・安全に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に法人の理念を唱和している。事業所独自の理念については職員間で話し合い、月に一回ほどのペースで見つめ直し共有化を図っている。	事業所では、法人の理念を基に、職員で事業所独自の目標を作成している。職員は、地域密着型サービスの意義や役割を理解し、日頃の話し合いの中で理念を共有している。運営推進会議で出席者に、事業所の思いや目指すあり方を知ってもらう機会を設けたり、職員の意見を取り入れた短期目標を掲げ、日々の話し合いや振り返りによって、職員間で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の知り合いのボランティアをお招きしイベントを開催したり、利用者と職員で近隣を散歩し地域の方と挨拶、会話を行っている。	事業所は、地域の祭りに参加している。地域のボランティアの来訪もあり、生演奏でのフラダンスやマジック、誕生会などで、交流を図っている。また、事業所は地域の学生の体験学習を受け入れ、利用者との交流や車椅子の操作方法、バイタル測定の仕事等の体験を行っている。実践的な地域貢献や介護福祉の担い手としての活動に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族来訪時相談をお受けし支援方法についてその都度検討している。また運営推進会議にて地域の方へ理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に開催し、より多くの御家族や御家族の知り合いの方々などに声掛けを行い参加して頂いている。サービス向上に向けての意見が得られるよう努力している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。管理者は、運営推進会議の意義やその目的を理解している。事業所の身体拘束委員会の検討内容や介助方法、無料歯科相談やレク等、具体的な活動報告や不安・疑問となる内容を取り上げ、意見交換を行っている。出された意見は、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新、運営推進会議案内の際など町担当職員の方と面会し情報を共有している。また運営推進会議の参加を依頼し町主催の会議にも参加させて頂く事で協力関係が築けるよう努めている。	職員は、町担当窓口に出かけ、申請や実績報告を提出している。町が開催する研修会に参加したり、介護保険課以外の担当窓口にも出向いたり、相談や話し合いを行ったり連携を図るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し話し合いを行っている。現在、御家族希望もあり車椅子ベルトを使用されている方がいるが状態確認を行い記録し、御家族にも抑制のない自由な暮らしの大切さを話し合っている。	職員は、毎日のミーティングや2か月に1回の身体拘束廃止委員会で、身体拘束の内容や弊害を確認している。現在、利用者の安全のため、家族の了承を得て、やむを得ず車椅子ベルトを使用しているが、毎日の実施状況を検討記録し、抑制のない暮らしの大切さを家族に繰り返し説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等にて虐待とは身体的虐待だけでなく暴言や無視といった心理的虐待も含まれる事を話し合い虐待防止の徹底に努めている。利用者の表情、言葉にも配慮しわずかな変化にも気づけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内外の研修等に参加、必要とされる利用者様には支援できる体制を整えているが主に本部と管理者での対応である為他の職員が十分理解しているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明をさせて頂いている。不安や疑問点を話しやすい雰囲気作りを心がけ説明を行い納得を得た上で手続きをすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族便りを送付、生活状況・行事等をお知らせしている。家族や地域の方が来訪し相談しやすい雰囲気作りにも努めている。利用者、家族の意見をミーティングにて反映させている。	職員は、日頃から利用者や家族が意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議に出席する家族も多く、意見を聞いている。家族からの意見は、職員間で話し合い、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや朝礼夕礼時、意見提案を聞きその場で話し合いを行っている。また個別に管理者とコミュニケーションをとり話しやすい関係性作りを目指している。	管理者は、毎日のミーティングや関わりのなかで、職員が意見や要望を出しやすい機会を設けるようにしている。また、個別にメールなどで、職員の思いの汲み取りに努めている。行事や季節を取り入れた空間づくりなどに、職員の気づきやアイデアも活発に取り入れ、職員の働く意欲やサービスの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月に3~4回、事業所を訪れ管理者から聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる研修にもなるべく多くの職員が受講できるよう勤務にて参加できる体制づくりに努め、参加料を補助し機会を確保している。また研修報告書は回覧し全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同系列のグループホームやショートステイへ行き交流を持つと共に、管理者は系列外の施設、居宅、病院等へも訪問させて頂きネットワーク作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用希望があった際必ず管理者が入居前に本人にお会いし心身の状況を把握、本人の思いを知るよう努めている。サービス導入後にも会話の時間を持ちよりよい関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にもゆっくりお話を伺い御家族の思いを傾聴した上でこれまでの経緯をお聞きし安心して入居して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に重点を置きサービスが御本人に対し適しているかどうか、ミーティングにて話し合いを行っている。御本人、御家族の意見を聞き信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員が共有し、お茶の時間は隣に座り過去のお話を聞いたり花の植え替え時にもアドバイスを頂く等暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度家族便りを送付、近況報告と共に写真を同封させて頂いている。また来訪時にも直接近況をお伝えし御本人と御家族の関係がより良いものとなるよう支援させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行かれる方や週に一度自宅へ帰られご近所さんと会話をされる方、畑を見に行かれる方もおいで一人ひとりの生活習慣を継続できるよう努めている。	利用者や家族・関係者から聞き取り、入居に至るまで培ってきた人間関係や社会関係の把握に努めている。近隣住民や知人の来訪も多く、併設サービスを利用されている昔なじみとも継続的に交流できるように支援を行っている。また、家族の協力を得て自宅に帰ったり、畑の指導に行くなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやお茶の時間に職員が輪の中に入り利用者同士の関係性の調整役となって支援している。席替え等トラブルを未然に防げるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来訪して頂けるような関係性作りに努めている。他の事業所に移られた方には介護情報を提供、情報交換しやすい体制作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で思いや希望、意向を把握するよう努めている。困難な方には行動や表情から思いを汲み取れるよう努めるとともに御家族から情報を頂いている。	職員は、利用者との日頃の関わりのなかで、一人ひとりの思いを汲み取るよう心がけている。また、希望や意向を抽出しやすいよう利用者には居室でゆとり時間をかけて対応したり、家族や知人の方からも聞く機会を設けたりしている。意思の表出が困難な方には、表情や態度を察知し、本人本位で検討し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつこれまでの暮らしについて、御本人御家族から情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、出来る事の把握に努めるよう全職員で情報を共有している。洗濯たたみ、掃除、簡単な調理等それぞれ出来ることを発揮して頂けるようケアプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。三ヶ月ごとに担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。また変化に応じて臨機応変に見直しを行っている。	事業所では、本人や家族を含めた関係者で課題やケアについて話し合っており、介護計画書を作成している。意向の把握しにくい方に対しても「何をしている時が穏やかであるか」を繰り返し話し合い、できることの継続や達成可能な計画の作成に結びつけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況、暮らしの様子を個別記録に記入している。御本人の言葉もそのまま記入し、その中から御本人の主訴を推察して介護計画の見直しや作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて退院や送迎の支援に対応している。希望により訪問マッサージや訪問歯科にて治療されている方もおおいで。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が毎回参加して下さり、地域の情報を得ている。また地域の理髪店の利用、消防署との交流、ボランティアの協力の下安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を希望される方は基本的には家族付き添いの元の受診にて入居前と変わらず希望する医療を受けられている。家族が付き添い不可な場合は職員が代行している。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と職員、かかりつけ医で連携対応している。同一法人の運営する協力医療機関から看護師が訪問したり、緊急時の連携体制を構築したりして、適切な医療支援が受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェック、表情の変化などこまめに確認し、管理者に報告。管理者より看護師に連絡、異常時には関連施設の看護師が状態把握にくる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報(サマリー)を医療機関に提供している。重要な項目については口頭で説明しており入院中はお見舞いに行かせて頂くなど状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。また利用者の体調の変化に応じて御家族に報告、その都度意向を確認している。	契約時の段階で、本人や家族へ重度化や終末期のあり方、事業所にできる対応について説明している。そのつど、本人や家族の意向を把握し、主治医を含めた関係者間で話し合い、対応方針の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成すると共に救急車到着までの応急処置(酸素使用方法等)繰り返し学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。隣接する施設と合同で実施し、御家族や地域の方々にも連絡し参加を依頼している。	年2回、地震や火災、夜間を想定した避難訓練を同一法人の運営する併設の他サービス事業所と合同で実施している。備蓄品を準備している。事業所は2階建ての建物で、車イスを使用する利用者も多いため、避難誘導時の不安や災害時に備えての地域住民の協力体制が必要である。	災害時の対応を運営推進会議の議題に挙げ、住民や消防団、町や県の防災の専門家出席により具体的な対応を協議し、避難訓練時の役割を明確化することで、全職員が実践できるよう期待する。また、職員だけの誘導の限界を踏まえ、消防団や婦人会、近隣住民の協力が得られるよう働きかけ、共に訓練を行うなどの、支援体制の構築に取り組まれたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けは常に意識し対応出来る様毎日のミーティングにて話し合いを行ったり送りノートを活用している。さり気ない声掛けや誘導のあり方について全職員で考え日頃の実践に活かすよう努めている。	職員は、利用者一人ひとりの自尊心やプライバシーの確保について勉強会や話し合いを行っている。特に排泄や入浴時には、さりげない声かけや誘導を心がけている。日頃の会話や対応時においても、本人の気持ちに寄り添う支援につながるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で十分な意志表示ができない利用者の場合は表情や行動方思いを汲み取り一人ひとりにあった声掛けに留意する事で自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが一人ひとりのペースを大切に食事時間をずらしたり入浴日を変更したり就寝時間を変更したりと希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は行きつけの美容院へ行かれたり好みの化粧水を使用したり化粧やその日の衣装選びを楽しんでもらえるよう支援している。男性も整髪料を使用したり身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシの根とり、コロッケの衣付け、いなり寿司など一緒に準備している。また時期になると裏庭の菜園で収穫した野菜を調理している。後片付けも出来る方にして頂いている。	利用者と職員で食事の準備や調理を行っている。調理の音や煮炊きの匂いが、1日の流れや季節を感じるための大切なものとなっている。利用者と職員はともに野菜を育てている。下準備や下膳等、利用者一人ひとりの力量に応じて力が発揮できるような支援を行っている。弁当持参で外出することや食堂で一人ひとりがメニュー選びを行ったりすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、体重変化等の把握を行い医師・看護師からの指示、アドバイスを受けている。好みのものを御家族が持参されることもありおやつとしてお出しすることもあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア声掛けを行い御自分でされる方については見守りを、難しい方については職員が介助を行っている。また訪問歯科によるブラッシングの指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ、ポータブルトイレで排泄できるよう声掛け、誘導を行っている。体調の変化によって身体面精神面を常に配慮した上で、適宜オムツからパンツへの変更等対応を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者のプライドを損ねないよう、さりげない声かけや介助を心がけている。利用者がトイレに行きたい時に行ける介助を検討し、日中トイレで排泄する方も増え、生きる意欲や身体機能の向上につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、水分補給、軽体操により便秘予防に取り組んでいる。下剤を使用中の方においては排便のあった日は外す等個々に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず体調や排便の状況に応じて入浴の声掛けを行っている。また柚子湯や菖蒲湯を季節には取り入れ入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	事業所では、週3回の入浴日となっているが利用者の希望に応じた入浴を支援している。時間帯や回数、同性介助等、利用者一人ひとりの希望を尊重し、羞恥心や不安感に配慮した入浴支援に取り組んでいる。入浴を拒む方には、タイミングを変えたり、気長な声かけを行うなどしたりして支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクや入浴等によって活動量を増やし生活リズムを整え夜間安眠へ繋がるよう支援している。一人ひとりの生活パターンをつかみ午前休息、午後休息とそった方に合った支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方内容を一ヶ月ごとにファイルし全職員で把握できるよう努めている。医師・看護師との連携を図り、処方変更時の留意点等も把握、状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を発揮して頂けるよう花の植え替え、書道による行事のプログラム記入、塗り絵・ちぎり絵によるカレンダー作り等を依頼し共に共同作業を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族協力の下、墓参り、買い物、畑を見に行く等外出支援を行っている。職員とは近隣の公園へ出かけたり敷地内を散歩、初詣、お花見も外出行事として計画し取り組んでいる。	事業所では、日頃より近所に散歩や買い物に出かけている。また、地域の行事に参加したり、季節ごとに車で外出したりしている。家族の協力を得て、一時帰宅や外泊、田畑の工作指導に出かけることもある。車イスの方もできるだけ屋外で過ごせるよう、職員で話し合い、実践している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持参されている事で安心感が得られている方もおり、所有して頂いている。また行きつけの美容院へ行く為に御家族からその都度お金を預かり自分で支払いをされている方もおいでる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があった場合にはその都度対応。いつでも電話の利用ができる事を説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には季節の花を飾り、壁面には利用者と職員で作成した季節の作品を飾っている。大きな窓からの光の調整はロールカーテンにて行い季節の移り変わりもいち早く見ることができる。	共用空間は、明るい空間となっている。廊下や壁面には、職員と利用者が作成した季節の飾りや作品を掲示している。利用者同士で会話を楽しんだり、ソファでテレビを見たりして、憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや椅子を用意し廊下の隅にテーブルを置くなどして利用者が独りになって落ち着ける環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や品物等を持参して頂き、若い頃の写真を飾られている方もおいでる。居心地良く安心して過ごせるよう支援している。	居室には、開放感のある大きな窓があり、景色や季節の移り変わりを眺めることができる。自宅と変わりなく過ごすことができるよう、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでもらっている。生花を飾ったり、携帯電話で気兼ねなく連絡を取り合ったりと一人ひとりが思い思いに落ち着いて過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる位置に手すりを設置し、車椅子の方も安心して利用できるトイレを配置している。危険防止に努め安全で自立した生活が送れる環境になっている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に法人の理念を唱和している。事業所独自の理念については職員間で話し合い、月に一回ほどのペースで見つめ直し共有化を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	退所された御家族より野菜を頂くことも有り、利用者が直接お礼を言われる等交流が途絶える事なく続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生・中学生の体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後は議事録を作成し、当日参加できなかった職員にも内容を確認してもらい会議にてあがった意見について感想を求め、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新、運営推進会議案内の際など町担当職員の方と面会し情報を共有している。また運営推進会議の参加を依頼し町主催の会議にも参加させて頂く事で協力関係が築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し話し合いを行っている。現在、御家族希望もあり車椅子ベルトを使用されている方がいるが状態確認を行い記録し、御家族にも抑制のない自由な暮らしの大切さを話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等にて虐待とは身体的虐待だけでなく暴言や無視といった心理的虐待も含まれる事を話し合い虐待防止の徹底に努めている。利用者の表情、言葉にも配慮しわずかな変化にも気づけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内外の研修等に参加、必要とされる利用者様には支援できる体制を整えているが主に本部と管理者での対応である為他の職員が十分理解しているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明をさせて頂いている。不安や疑問点を話しやすい雰囲気作りを心がけ説明を行い納得を得た上で手続きをすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族便りを送付、生活状況・行事等をお知らせしている。家族や地域の方が来訪し相談しやすい雰囲気作りに努めている。利用者、家族の意見をミーティングにて反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや朝礼夕礼時、意見提案を聞きその場で話し合いを行っている。また個別に管理者とコミュニケーションをとり話しやすい関係性作りを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月に3～4回、事業所を訪れ管理者から聞き取りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる研修にもなるべく多くの職員が受講できるよう勤務にて参加できる体制作りに努め、参加料を補助し機会を確保している。また研修報告書は回覧し全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同系列のグループホームやショートステイへ行き交流を持つと共に、管理者は系列外の施設、居宅、病院等へも訪問させて頂きネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用希望があった際必ず管理者が入居前に本人にお会いし心身の状況を把握、本人の思いを知るよう努めている。サービス導入後も会話の時間を持ちよりよい関係性を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後直の来訪を遠慮される御家族には電話をさせて頂きホームでの様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に重点を置きサービスが御本人に対し適しているかどうか、ミーティングにて話し合いを行っている。御本人、御家族の意見を聞き信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員が共有し、戦争中の話をお聞きしたり、農家をされていた方に野菜作りのアドバイスを頂く等暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度家族便りを送付、近況報告と共に写真を同封させて頂いている。また来訪時にも直接近況をお伝えし御本人と御家族の関係がより良いものとなるよう支援させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行かれる方や週に一度自宅へ帰られ近所さんと会話をされる方、畑を見に行かれる方もおいで一人ひとりの生活習慣を継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやお茶の時間に職員が輪の中に入り利用者同士の関係性の調整役となって支援している。席替え等トラブルを未然に防げるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来訪して頂けるような関係性作りに努めている。他の事業所に移られた方には介護情報を提供、情報交換しやすい体制作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で思いや希望、意向を把握するよう努めている。困難な方には行動や表情から思いを汲み取れるよう努めるとともに御家族から情報を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつこれまでの暮らしについて、御本人御家族から情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、出来る事の把握に努めるよう全職員で情報を共有している。洗濯たたみ、掃除、簡単な調理等それぞれ出来ることを発揮して頂けるようケアプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。三ヶ月ごとに担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。また変化に応じて臨機応変に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況、暮らしの様子を個別記録に記入している。御本人の言葉もありのまま記入し、その中から御本人の主訴を推察して介護計画の見直しや作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて退院や送迎の支援に対応している。希望により訪問マッサージや訪問歯科にて治療されている方もおいで。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が毎回参加して下さり、地域の情報を得ている。また地域の理髪店の利用、消防署との交流、ボランティアの協力の下安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居によりかかりつけ医が変更となる場合には紹介状により医師間での連絡を取り合い、かわりなく適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護看護師が来訪、管理者より一人ひとり報告。適切なアドバイス、処置方法を指導して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報(サマリー)を医療機関に提供している。重要な項目については口頭で説明しており入院中はお見舞いに行かせて頂くなど状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。また利用者の体調の変化に応じて御家族に報告、その都度意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成すると共に救急車到着までの応急処置(酸素使用方法等)繰り返し学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。隣接する施設と合同で実施し、御家族や地域の方々にも連絡し参加を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けは常に意識し対応出来る様毎日のミーティングにて話し合いを行ったり申し送りノートを活用している。さり気ない声掛けや誘導のあり方について全職員で考え日頃の実践に活かすよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で十分な意志表示ができない利用者の場合は表情や行動方思いを汲み取り一人ひとりにあった声掛けに留意する事で自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが一人ひとりのペースを大切に食事時間をずらしたり入浴日を変更したり就寝時間を変更したりと希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は行きつけの美容院へ行かれたり好みの化粧水を使用したり化粧やその日の衣装選びを楽しんでもらえるよう支援している。男性も整髪料を使用したり身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お花見時期には桜の木の下でお弁当を食べたり、秋には運動会後にお弁当をお出しするなど雰囲気作りにも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、体重変化等の把握を行い医師・看護師からの指示、アドバイスを受けている。好みのものを御家族が持参されることもありおやつとしてお出しすることもあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい困難な方にはガーゼでの拭き取り、舌ブラシでのブラッシングを実施、清潔を心掛けている。夜間は義歯をお預かりし週に一度義歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ、ポータブルトイレで排泄できるよう声掛け、誘導を行っている。体調の変化によって身体面精神面を常に配慮した上で、適宜オムツからパンツへの変更等対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、水分補給、軽体操により便秘予防に取り組んでいる。下剤を使用中の方においては排便のあった日は外す等個々に応じた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず体調や排便の状況に応じて入浴の声掛けを行っている。好みのシャンプー、ボディソープを使用されたり入浴剤を使用される方もおいで入浴を生活の楽しみとされている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中レクや入浴等によって活動量を増やし生活リズムを整え夜間安眠へ繋がるよう支援している。一人ひとりの生活パターンをつかみ午前休息、午後休息とその方に応じた支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方内容を一ヶ月ごとにファイルし全職員で把握できるよう努めている。医師・看護師との連携を図り、処方変更時の留意点等も把握、状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室にて花を育てられたり、DVD鑑賞をされたり、阪神戦を応援されたりと、楽しみごとが継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族協力の下、墓参り、買い物、畑を見に行く等外出支援を行っている。職員とは近隣の公園へ出かけたり敷地内を散歩、初詣、お花見も外出行事として計画し取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持参されている事で安心感が得られている方もおり、所有して頂いている。また行きつけの美容院へ行く為に御家族からその都度お金を預かり自分で支払いをされている方もおいでる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があった場合にはその都度対応。いつでも電話の利用ができる事を説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には季節の花を飾り、壁面には利用者と職員で作成した季節の作品を飾っている。大きな窓からの光の調整はロールカーテンにて行い季節の移り変わりもいち早く見ることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや椅子を用意し廊下の隅にテーブルを置くなどして利用者が独りになって落ち着ける環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や品物等を持参して頂き、若い頃の写真を飾られている方もおいでる。居心地良く安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる位置に手すりを設置し、車椅子の方も安心して利用できるトイレを配置している。危険防止に努め安全で自立した生活が送れる環境になっている。		